

毛利氏が結ぶ 2つのまち 安芸高田市×萩市

毛利元就が戦国時代に本拠を置いた安芸高田市。そして、その孫・毛利輝元が萩城を築城し、城下町として発展した山口県萩市。2つのまちは、毛利氏という深い歴史の縁で結ばれています。このつながりをきっかけに、このたび安芸高田市と萩市の新たな交流がスタートしました。

毛利輝元は本拠を郡山城から広島城へ移した後、関ヶ原の戦いを経て周防・長門へ移封。1604年に萩城を築き、萩藩(長州藩)の基礎を築きました。以後、萩は260年余りにわたって毛利氏の城下町として発展し、幕末には明治維新を担う多くの人材を輩出しました。現在も萩市には、萩城跡をはじめ、毛利氏の菩提寺や歴代藩主の墓所など、毛利氏ゆかりの史跡が数多く残されています。



萩市と安芸高田市

歴代毛利家 藩主が 眠るまち

〈毛利輝元の墓所〉

天樹院墓所



〈歴代萩藩主(毛利家)の墓所〉

初代と偶数代藩主を祭る 大照院



3代以降の奇数代藩主を祭る 東光寺



交流第一弾

まんとうえ

8月13日(木) 萩・万灯会「迎え火」に出店

毛利氏の菩提を弔う萩市の「萩・万灯会」。8月13日の「迎え火」(大照院)と15日の「送り火」(東光寺)には、毛利家の墓所に並ぶ約500～600基の石灯籠に明かりがともされ、幻想的な光景が広がります。

今回、安芸高田市は「迎え火」に観光PR・特産品販売ブースを出店。多くの来場者でにぎわう中、萩市の皆さんに安芸高田市の魅力を発信しました。



歴史のご縁を未来へつなぎます!

毛利氏発展の地である安芸高田市と、毛利氏が新たな歴史を刻んだ萩市。両市をつなぐ歴史あるご縁を大切にしていまいます。互いのまちの魅力に触れながら、市民同士の新たなつながりが生まれ、交流が少しずつ広がっていくことを期待しています。



萩市 田中 文夫 市長

商工観光課 観光係 ☎お太助フォン 47-4024

今月の

市長 コラム

毛利氏がつなぐ、安芸高田市と萩市

8月13日(木)、山口県萩市の大照院で行われた「萩・万灯会」に出席しました。萩藩主毛利氏の菩提を弔うこの行事では、約600基の石灯籠にろうそくの火がともされ、静かな境内に温かな灯りが広がります。ゆらぐ光を眺めながら、毛利氏が歩んできた歴史の重みと、その歴史が今も地域をつないでいることを改めて感じました。

安芸高田市と萩市は、毛利氏を通じて深い縁で結ばれています。毛利元就が郡山城を本拠に勢力を広げ、その後、孫の輝元が萩に城を築きました。時代を経て離れた2つのまちが今、毛利氏という共通の歴史をきっかけに、新たな交流を育て始めています。

今回の万灯会では、本市の観光PRブースや物販ブースも設け、萩市の皆さんに安芸高田市の魅力を直接お届けすることができました。歴史は、過去を知るためだけのものではありません。そこにある縁をたどることで、今を生きる私たちの新しいつながりを生み出す力にもなると感じています。

これからも、毛利氏が残した歴史や文化を大切にしながら、萩市との交流を市民の皆さんにも広げていきたいと考えています。互いのまちを知り、訪れ、交流する機会をつくることで、先人から受け継いだ縁を未来へとつなげていきます。



「萩・万灯会 迎え火」で萩市の皆さんと交流しました。



国民年金のあれこれ

10月から国民年金保険料の育児免除制度が始まります

育児期間中の経済的な負担を軽減するため、子どもを育てる国民年金加入者を対象に、子どもが1歳になるまでの国民年金保険料が免除される新しい制度が始まります。

対象 ※下記の全てに該当する方

- 国民年金第1号被保険者(自営業者、学生、無職の方など)
- 10月1日以降に1歳未満の子を養育する 実父母・養父母
- 子と身分(親子)関係が継続している方
- 子と住民票所在地が同一である方

※育児免除期間中も付加保険料(月額400円)を納付することができます。

老齢基礎年金に反映

保険料を免除された期間も納付したものととして扱われ、老齢基礎年金の受給額に反映されます。

夫婦共に免除

第1号被保険者であれば、夫婦共に育児免除制度の対象になります。

納付済みの保険料も免除対象

すでに保険料を納付した期間や、免除・納付猶予などが承認されている期間も免除期間になり、納付済みの保険料は充当または還付されます(要届出)。

〈育児免除期間のイメージ〉

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	12月
母親	産前産後免除期間 出産予定月または出産月の前月から4か月間				育児免除期間		1歳の誕生日の前月(12月分)まで
父親(養父母)		育児免除期間					

詳しくは
日本年金機構ホームページ



三周年年金事務所 ☎0824-62-3107